

60
695



始



60
695

醫學博士 廣田 先生校閱
昭和十一年三月二十日

紫 外 線 療 法



紫

外

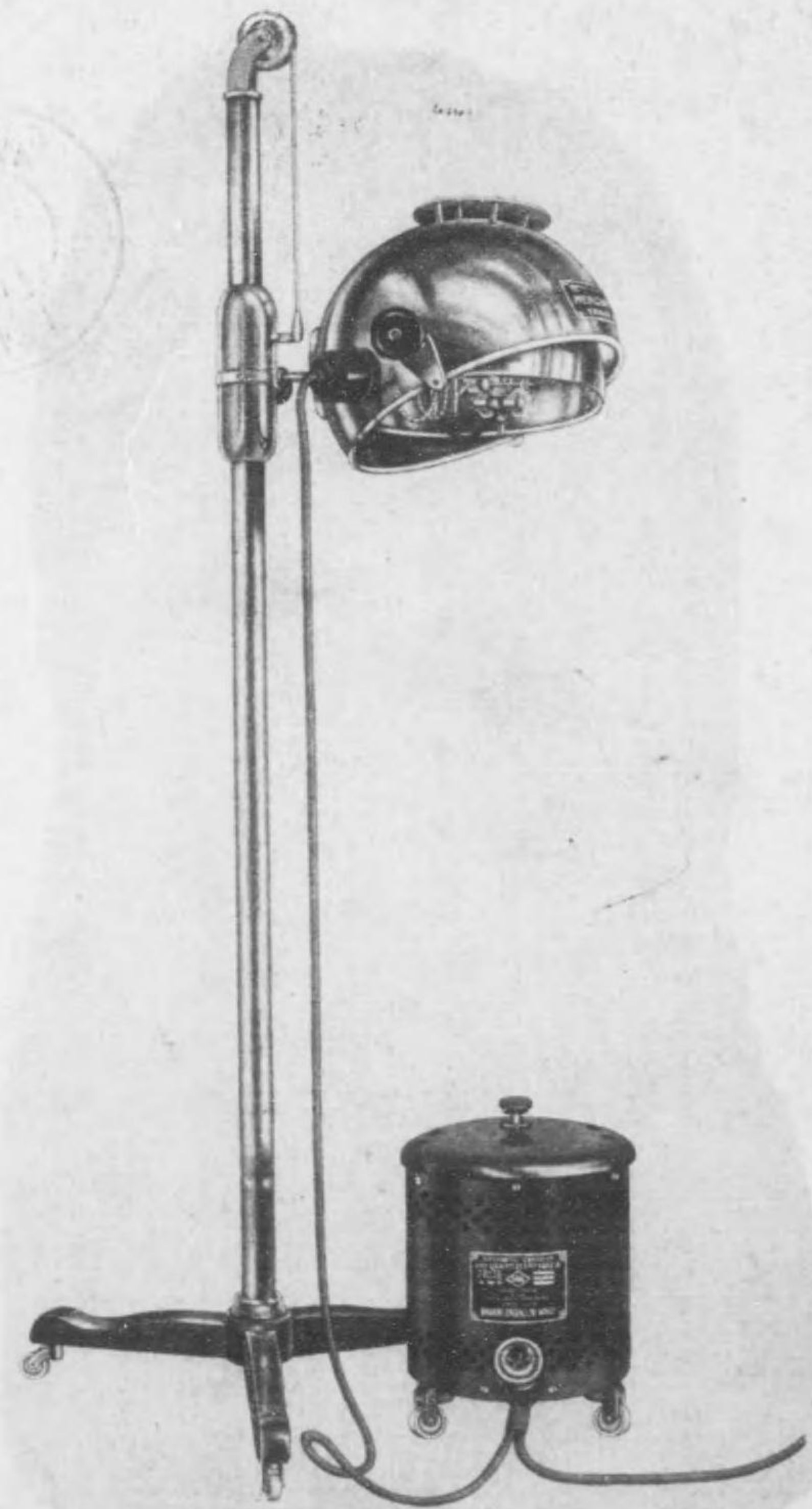
線

療

法

醫學博士 藤浪剛一先生校閱
醫學士 春名英之先生著

大正
15. 10. 11
内交

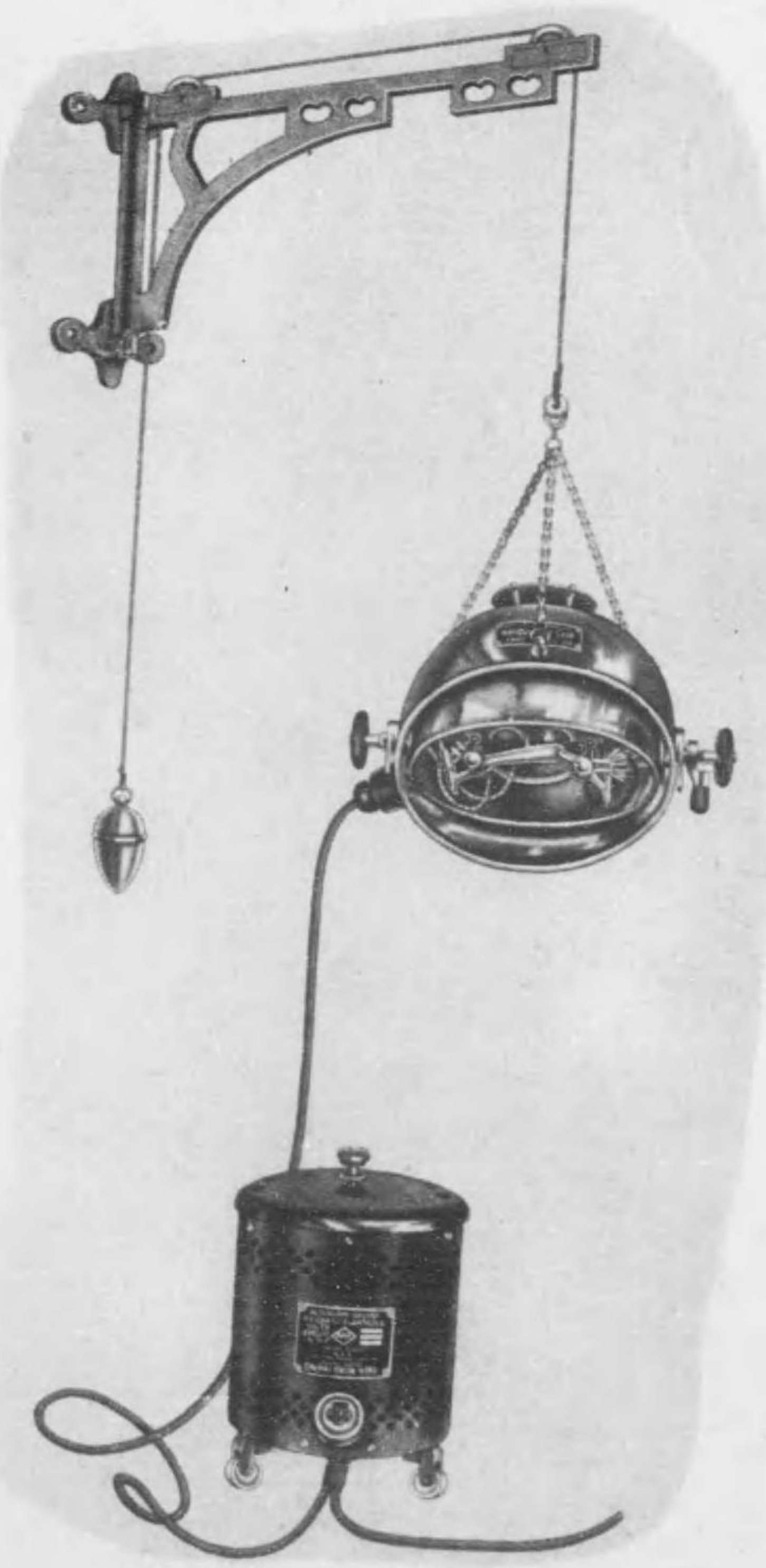


燈 陽 太 工 人 本 子

60-675
61-577

紫外線療法目次

總論	一	醫學博士 藤浪剛一 校閱	一
生物學的作用	一	醫學士 春名英之 著	一
照射方法	四		四
各論	五		五
甲 內科的疾患	五		五
一 肺結核及び喉頭結核	五		五
二 結核性肋膜炎	七		七
三 腹膜及び腸結核	七		七
四 淋巴腺結核	七		七
五 非結核性呼吸器疾患	七		七
急性及慢性氣管支炎	七		七
氣管支性喘息	七		七
百日咳	八		八
非結核性肋膜炎	八		八
肺炎	八		八
新陳代謝疾患	八		八
痛風	八		八
脂肪病	九		九
單純性尿崩	九		九
佝僂病	九		九
血壓亢進症(動脈硬化症)	九		九
慢性關節炎(關節硬化症)	九		九
筋肉痲痺質斯	九		九
神經系疾患	九		九
神經痛	九		九
神經性心臟病	九		九
神經衰弱	九		九
ヒステリー	九		九
舞蹈病	九		九
遺尿症	九		九
癲癇	九		九
テタニー	九		九
貧血	十		十
腎臟疾患	十一		十一



燈陽太工人バギ
(型垂懸)

十二 消化器疾患
十三 甲状腺腫 パセドウ氏病

乙 外科的疾患
一 創傷
二 瘻 疽
三 火傷
四 癰瘍 蜂窩織炎 膿瘍
五 骨髄炎
六 骨折
七 膿毒性潰瘍
八 附隨病 關節炎 打撲傷 血腫
九 結核
十 結核性腱鞘炎及び結核性粘液囊炎
十一 淋巴腺結核
十二 骨並びに關節結核
十三 結核性睾丸炎

丙 皮膚科的疾患
一 蕁麻疹
二 癩疹
三 皮膚癢痒症
四 尋常性天疱瘡
五 ガーリング氏疱疹狀皮膚炎
六 先天性表皮水泡症

一〇
一一
一二
一三
一四
一五
一六
一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六一
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

三十 癩 風
三十一 白癬
三十二 尋常性瘡癤
三十三 潰瘍
三十四 皮膚腺病
三十五 腺病性苔癬
三十六 顔面播種狀粟粒瘡
三十七 壞疽性丘疹狀結核疹
三十八 惡液性瘡癤
三十九 腺病性硬結性紅斑
四十 凍瘡狀瘡癤
四十一 魚鱗癬
四十二 毛孔性苔癬
四十三 角性瘡癤
四十四 鱗狀毛囊性角化症
四十五 血管腫
四十六 パーセツト氏病
四十七 白癜風
四十八 汎發性粟皮症
四十九 限局性粟皮症
五十 紅斑性瘡癤
五十一 圓形脫毛症
五十二 批糖性脫毛

二〇
二〇
二〇
二〇
二一
二一
二一
二一
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二三
二三
二三
二三
二四
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六一
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

丁 小兒科的疾患
一 結核
二 結核性淋巴腺炎(淋巴腺結核)
三 骨及關節結核
四 皮膚結核
五 結核性腹膜炎
六 肺門腺結核
七 肺結核
八 ヘルケ氏反應陽性兒童
九 佝僂病
十 小兒テタニ
十一 小兒丹毒
十二 小兒ノ皮膚疾患 濕疹
十三 百日咳
十四 舞蹈病 夜尿症 氣管支喘息 神經質
十五 小兒血液疾患 特に貧血症
十六 虛弱兒童
戊 婦人科的疾患
一 全身照射
二 内部生殖器の局所疾患

顆粒性膿炎
子宮腺部の膿爛
女子外陰部掻痒症

二七
二八
二八

頸管疾患
子宮附屬器疾患
月經障害

二八
二九
二九

四

紫 外 線 療 法

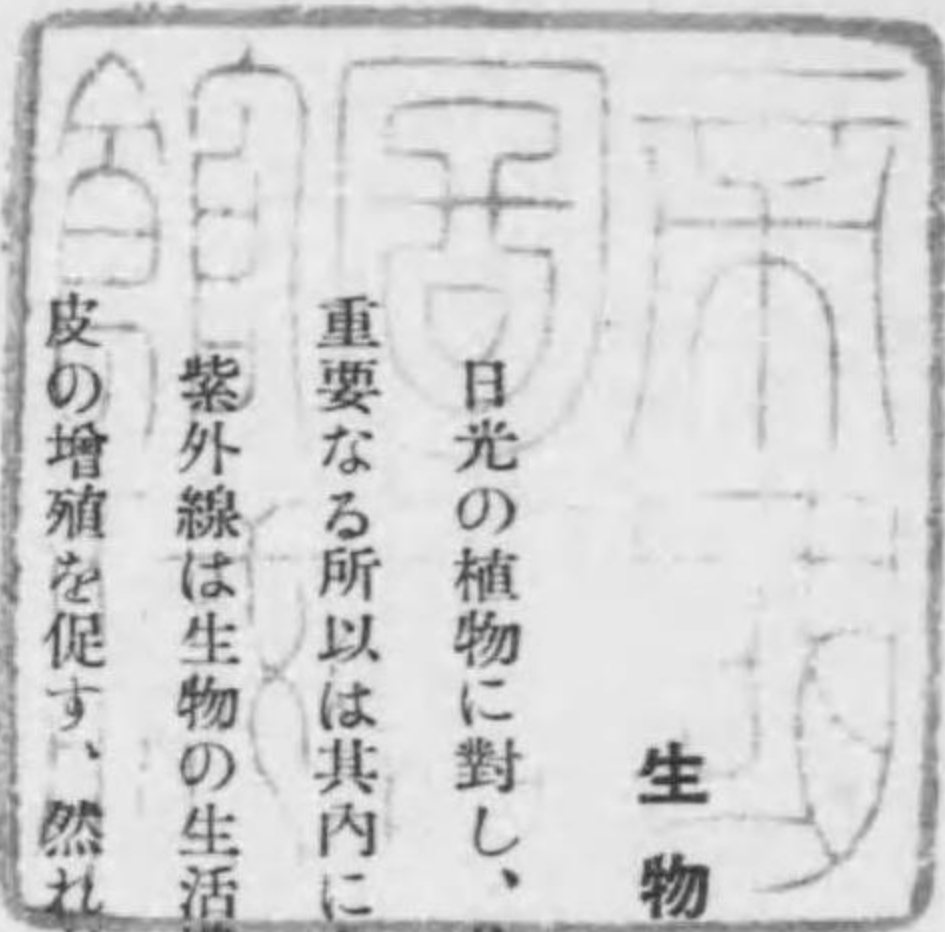
慶應義塾大學醫學部理學的診療科教室
醫 學 士 春 名 英 之

總 論

生物學的作用

日光の植物に對し、其葉綠素形成に欠く可からざるものなるが如く、人類にも亦極めて大切なるものなり、日光の重要な所以は其内に含まるゝ紫外線の作用に歸せざる可からず。

紫外線は生物の生活機能に對して興奮性作用を有す、紫外線照射後細胞分裂旺盛となる、故に創傷に用ふれば其上皮の増殖を促す、然れども極く強く照射する時は却つて細胞分裂を阻害し遂に死に到らしむ。紫外線は又骨成長に對し良好に作用し、佝僂病に應用する時は之をして治癒せしむべし。皮膚は紫外線照射後發赤を來すべく、之に二種あり、一は二、三時間以内に消失するもの、他は多少の潜伏期の後に現はるゝものなり。前者は照射後或は照射中に皮膚發赤を來し、この紅斑は溫熱線の影響とも周圍の空氣の熱作用にも歸せらる。この熱紅斑は屢々斑點狀に現はれ照射部位に一致せざる事ありて間も無く消失す。而して數時間後に現はるゝ後者の紅斑とは異なれり。是は化學線に因



るものにして、其の一樣なる紅斑は照射部位に厳しく限局せられ、光線の種類及び強さに従つて水疱形成及び出血を來す事あり。此炎症性の現象は間も無く去りて表皮の落屑が色素成生と共に現はる。

「マウス」に短時間の紫外線照射を行ふに脾、肝、肺に尙ほ軽度なれども腎にも充血起る。レヴィ氏の試みたる一週日以上に互れる長時間の照射は脾に強き變化即ち充血、結締織の發育、多少の「メガカロチン」、肝の充血、及び肝組織の壊死、更に肺、腎の充血を來せり。無色素の動物に起りたる是等の變化が人類に於ては同日に論ず可からざるべきも、紫外線の作用が單に皮膚にのみ留まらざる可きは確實なり。

グンシャルデイは炭素孤光燈の照射によつて赤血球及び血色素の増加を來せしを記載するも水銀石英燈の照射に於ては赤血球及び血色素量には著變なく、一般に白血球の増加を見る、殊に單核細胞の増加を見る、而して此の増加は照射の強度と平行す。

脈搏は日光浴後増加すと云ふ者と不變なりと云ふ者とあるも、多くは増加す、レントン氏に依るに多きは一〇搏を増加すと。血壓は照射後多くは下降す。其價は學者の報告によりて異なるも凡そ二—一〇耗の降下を將來す、甲賀氏は一〇—二〇耗の降下を見ると云へり。血壓降下は「アドレナリン」の酸化によると云はる、「アドレナリン」は交感神経の緊張を來し血壓は亢進す、元來「アドレナリン」は酸化し易き物質なるが故に、紫外線照射により全身の新陳代謝旺盛となりて迅速に酸化せられて血壓降下を來すと。皮膚末梢血管も緊張減弱し擴張し皮膚血液の循環旺盛となる。發赤消退後なほ皮膚血管の機械的刺戟過敏を存す。

呼吸に及ぼす影響はハッセルバルヒ、レントン等呼吸数は著しく減少し、其深度は夫れに應じて又はそれ以上に

増加するを見たり。エーデルは血液中の炭酸緊張は水銀石英光の弱刺戟は效果なく、中等刺戟は緊張を高め、強刺戟は却つて降下せしむと。

紫外線の新陳代謝に及ぼす作用は、紫外線の作用中最も重要な者にして、新陳代謝は旺盛となり、この際酸化作用も還元作用も共に旺盛となる。故に還元作用減弱の爲に脂肪沈着の多き者は照射によつて減少す、即ち肥滿せる者は普通體にまで瘦せ、反對に酸化作用減退による脂肪沈着少なき者は照射により肥滿し來る。この脂肪新陳代謝と同様な現象が蛋白質、含水炭素、プリン體の代謝機能にも認めらる。ビンクセン氏の實驗に於て、感受性動物の新陳代謝は非感受性動物と全く相違し、前者に於ては窒素排泄が亢進し、後者には減少せりと云ふ。

紫外線は又直接細菌に作用せしむれば強烈なる殺菌作用を有するも組織中の細菌に對しては紫外線は深達力弱きが爲め此處にその作用を及ぼす事能はず、故に組織中の細菌に對し殺菌作用を期待し得ず。然るに最近コールブルック、ヒル及びエーデイナウは紫外線照射前後に於ける動物及び人血液の葡萄狀球菌に對する殺菌作用を比較せしに兎に於ては六五%増加、豚は二七%、犬は三三%、人に於ては一七%何れも其増加を示せり。

徳永博士は最近紫外線照射によつて皮膚の過敏性減少する事を證明せり。一般に紫外線照射は生物の免疫力を興奮せしむと稱へらる。之は恐らく、或疾病に對し保護作用を有する皮膚の一種の内分泌作用即ち所謂「エゾフイラキシン」性質の影響が大なる意義を有するならん。此點に關しては、なほ未知に屬す。又ボロニジヨネスコ、モルビゾン氏等によるに馬の血精に紫外線を照射すれば、馬血精に對し過敏となれる「モルモット」に注射するも過敏現象起らずと。

一般に紫外線照射は總ての「バルチアールアンチゲン」の簇生を良くす、即ち蛋白「アンチゲン」は勿論、脂肪「アンチゲン」も良好となる。

照射によつて生ずる色素沈着は一種の防禦作用にして而して是は血色素量と平行するが故にその沈着は一般抵抗力の一種の係数と見做す事を得と。而して結核は内發性毒素によりて身體を中毒せしめ、殊に血色素の消耗を來す、即ちこの二次的貧血は着色の早期消失となりて現はる、故に着色の薄弱乃至脱色の迅速なるは一般抵抗力の減弱せるを證し、反之早く且つ長く着色せるは健康の證なりと。皮膚の着色するは色素「メラニン」によるものにして此の色素は皮膚の細胞體内に生ぜる新陳代謝産物にして、光線を吸収し流動性となり血行に入り全身を循環す。此際光源より得たる「エネルギー」を人體内部に運搬する働きあり、即ち色素は光の酸化を司るものなりと。

四

照射方法

遠隔照射法及び壓抵照射法の二法あり、又遠隔照射法を全身照射法と局所照射法とに分つ。

遠隔照射法は秃髮、鱗屑疹、苔癬、毛瘡、疥瘡、白癬、濕疹、癩腫、潰瘍、創傷、種々なる結核性疾患、其他内科的疾患等に著效あり。

全身照射法 凡て太陽燈照射に際して、皮膚の感受性は各個人に就きて極めて著しき差あるを以て最初の照射には特に注意して強き反應の發來せざる様緩和に照射すべし。一般に距離一米突、照射時間最初先づ三分間より始む、漸次増量して三十分間に至る。フーゴバツハは一米突の距離を上乘なりと云ふ、六〇輻にては感受性高き柔弱小兒には強き火傷を起し又は危険ある事ありと。一週三回を適度とす、尙僕病、テタニー、百日咳の如く迅速なる影響を得

んとするには毎日照射すべし。結核の如きものには一週三回をよしとす。

局所照射法 距離二〇乃至五〇輻、時間五乃至三〇分、漸次増量して所要の紅斑にまで到達せしむ。主として皮膚科的疾患に應用せらる。光の方向は照射面と直角になる様心掛くべく、燈を餘り近接し又は長時間照射する時は火傷を生ずる虞あるを以て注意すべく、必要以外の部位は紙又は布帛にて被覆すべし。

壓抵照射法 狼瘡、表皮瘡、血管腫、酒齶等に用る照射時間は十分乃至一時間とす、この壓抵法による時は一日乃至三日の潜伏期を経て、潮紅腫脹と共に劇しき焼灼感及び刺痛あり、時に水疱を生ずる事あり、十日乃至二十日にして治に就くべし。この壓抵法はクロマイエル氏燈によるを良しとす。石英製の壓抵器をこの先端に附けて照射するものなり。

各論

甲 内科的疾患

内科的領域に於ける人工太陽燈の應用範圍は主として結核性疾患、血壓亢進症、神経系疾患等なり。太陽燈を照射するに爽快の感を覚え、快よき睡眠を催し照射後睡眠は充分となり食欲増進し呼吸深刻、血壓降下し脈搏充實し、利尿強盛となる。

一 肺結核及び喉頭結核

肺結核及び喉頭結核の初期に紫外線照射を行へば良結果を得べく、肺炎加答留、其他肺炎疾患の疑ある場合或は結

核體質の人の貧血、特に結核性體質の人々には紫外線は治療法として可成りの確實性の存するものなり。

進行性、滲出性及び破壊性のもは禁忌すべきものなりと云ふ人あり。咯血は必ずしも禁忌ならず、むしろ初期に於ては却つて良果を得。病竈が肺門より起來せしもの特に肺門腺結核には著效あり、この際尙ほレントゲン深部療法を兼用せるに於ては其效更に著し。

熱は紫外線照射に對する何等禁忌ならず。クリュウゲルは多くの場合照射後熱の下降を見たり。デービッドは一日中無熱時を撰んで照射せん事を奨賞せり。

照射量 之は各個人によりて異なるべきものにして規準を以て律する能はず、頗る困難なるものにして量を誤りしために潜在病竈の勃發より持続的障害を起したる例あり。衰弱せる有熱患者は弱放射より始め漸次増量すべく、相當抵抗ある無熱の肺及び喉頭結核乃至貧血患者は強く照射す。喉頭結核にはなほ局所照射をも行ふ。

照射後多くの場合熱下降し、一般状態良好となり、咳嗽、咯痰の減少を來し、體重増加、血色素、赤血球の増加を認む。肺結核患者の紫外線療法の極めて困難なる所以のものは一に其適應症の撰擇にあり、多くの學者は白血球像の變化を以て指針となせり。即ち

- 1 白血球數が總體に於て正常なる事（白血球の増加は合併症あるを意味す）
- 2 中性白血球の増加、淋巴球及び「エオチン」嗜好細胞の減少は多くの場合經過不良を示す
- 3 先づ淋巴球の増加、「エオチン」嗜好細胞増加及び中性白血球の減少は經過の良好なるを示す

結核を治療するに當つて紫外線療法のみならず他の療法、例之、其他の理學的療法、食餌療法、藥物療法、細菌免

疫學的療法等をも應用せられん事は勿論なり。

二 結核性肋膜炎

乾性、濕性共に有效なり、滲出液の吸収は一般に速かにして初期に於ては穿刺の必要なし。結核性膿胸には無効なり。

三 腹膜並びに腸結核

有效なり。特に小兒に於ける結核性腹膜炎及び腸結核に顯著なり。照射後は滲出液吸収せらるゝか、纖維性に變化す。貧血、下痢、熱も同時に消失す。深江氏の實驗に由るに三十八九度の有熱患者五回の照射頃より下熱し始め、腹部疼痛去り全腹部著しく軟弱となり三十回目頃より作業し得るに至れりと。

最初は局所照射法に従ひて緩和に照射し紅斑の現はるゝまで毎日行ふ。次でそれより三日後全身照射を併用し漸次照射を強くし數週乃至數月に及ぶ。

四 淋巴腺結核

非常に有效なり。表在の例之頸腺結核の如きは腫脹縮小顯著にして全身状態佳良となる。頸腺結核のみならず肺門腺及び腸間膜腺結核にも好果を擧ぐべし。

全身照射に強き局所照射を併用す。

五 非結核性呼吸器疾患

急性及慢性気管支炎特に慢性に有效なり。咳嗽を緩和し粘液分泌を減少せしむ、同時に合併せる氣腫にして喘息様障害ある者は粘液の分泌輕快し全身状態良好となる。陳舊性慢性症は全治し難しと雖も症候の輕快は認め得。氣管支性喘息の治療は望み難きも、多くの場合發作の輕快並びに短縮を見らる。百日咳 有效なり、經過日数は短縮せざるも其發作は輕快すと。非結核性肋膜炎 滲出液の有無に關せず有效なり、膿胸に於ても良果を擧ぐと。肺炎 紫外線照射により其恢復期を短縮し全身状態に好影響を與ふ。非結核性疾患は局所照射の他全身照射をも行ふをよしとす。

六 新陳代謝疾患

本療法に重きをおきて食餌療法を忽にすることあるべからず。本療法はむしろ從たるべきものなり。

痛風 紫外線照射は皮膚機能を興奮せしめ、尿酸の排泄を促進し、其の體内に於ける蓄積を防ぐ、其他の作用相対つて好影響を與ふるものなり。

脂肪病 前に述べたる如く脂肪新陳代謝を亢進して効果を擧ぐるものなり。

單純性尿崩 (Diabetes insipidus) にも有效なりと。照射によりて先づ煩渴消失すと云ふ。

佝僂病 豫防的にも治療的にも頗る有效なるものにして、明白にレントゲン寫眞によりて證明せられたり。

この療法に先ちて先づ骨の變形を矯正すべきものなり。是れ光によりて化骨機能が忽ちにして増進せらるゝを以て畸形の固定せらるゝを防ぐ必要あればなり。

血壓亢進症(動脈硬化症) 血壓亢進症の内特に「エセンシエルヒベルトニー」の際最も效あり。照射後十乃至二十「ミリ」の降下を見、照射を反覆するに、遂には二百「ミリ」位のものも百四五十「ミリ」迄下け得と。初期動脈硬化症には非常に良好なる影響を及ぼし、血液循環は良好となり、耳鳴、眩暈發作消失し、血壓下降し、食欲、睡眠其他一般状態良好となると。重症硬化症及び代償機能障害ある心臟病には禁忌なり。

七 慢性關節痠麻質斯

之が理學的療法としては熱氣療法を以て其最とし、本法は一般状態を佳良ならしむべく、全身照射を長く持續す。其他ザリチール酸製劑の投與を忘るべからず。

急性症には禁忌なり。

八 筋肉痠麻質斯

急性症、慢性症共に有效なり、強き局所照射によつて疼痛消失し運動佳良となる。この際強照射により紅斑乃至水泡形成を來すを辭すべからず。

九 神経系疾患

その効果は主として暗示作用に歸せらるゝも、其他に新陳代謝、循環器、交感神経等に及ぼす影響も關係するものならん。

神経痛 急性症に強き局所照射を行ふに、忽ちにして疼痛の消失せる報告あり(レイ氏)。慢性症は殊に皮膚過敏なる

者には弱照射より始め漸次強くす。又レイ氏は挫傷、滲漏性關節炎、脱臼、裂傷等の外傷後の頑固な疼痛にも良結果を得たり。

一〇

神経性心臟病

神経衰弱

ヒステリー

舞踏病

遺尿症

癲癇 等には全身照射を行ひ、先づ弱照射より始む。

初生児の「テタニー」は尙優病と同様非常に有效なるものにして、患者より感謝の意を表せらるゝものなり。

十 貧 血

種々の貧血に用ひて良好なる影響を與へ貧血輕快すべし。

十一 腎 臟 疾患

血壓を低下し心臟及血管の負擔を低減し、利尿をよくすと云ふ。又萎縮腎に於て距離五〇糎、時間八乃至二〇分間

一週二三回、一ヶ月の照射によつて血壓下降し、頭痛除去せられ、睡眠十分となり全身状態佳良となりし報告あり。

十二 消化器疾患

食慾を増進し、便通をよくし、體重増加すと、胃腸無力症、胃腸障害による二次的貧血及び肝疾患、瘰癧疾患等に良結果を擧ぐと。

十三 甲状腺腫 パセドウ氏病

に應用するにその症候的輕快を來すと云ふ。

乙 外科的疾患

一 創 傷

創傷に手術創、災害創、單純創、複雑創、傳染創、清淨創、新鮮創、化膿創、肉芽創等の別あれども、凡そ創傷と名づけらるゝものにして紫外線照射を行ひて不可なるはなし。創面不潔なる時又は膿分泌著しき時はよく拭ひて創面を清淨ならしめて後照射すべし。創傷に紫外線を照射する時は分泌物減少し、健康なる肉芽を發生し新生上皮の増殖を促し、治癒期間を著しく短縮す。膿分泌著明なるものも、早きは翌日より既に膿分泌の著減を見るのみならず悪臭漸次僅少となり疼痛著しく輕快し、全身の爽快を覺ゆ。治後創痕極めて平滑にして患者の感謝する所なり。兼ねて藥物療法を行へば更に妙なり。

二 壞 疽

紫外線照射は壞死物質の「デマルカチオン」を促し、その脱落を速かならしむ。

三 火傷 凍傷 酸「アルカリ」による腐蝕等の第二度第三度のものに照射するに創面清淨、乾燥し、壞死物質

一一

は間もなく除去せられ創面に「フィブリン」膜を生じ、漸次治癒機構をとら、疼痛著しく減少す。

四 癰瘍 蜂窩織炎 膿瘍

等を照射するに速かに吸収を促し全く治癒するか、或は又軟化を促進して治癒期間を短縮すべし。此場合には比較的弱く照射すべし。

五 骨髄炎

手術後の治癒機構を促進せしむるために照射す。この創傷は他創傷同様好結果を得べく、骨破壊によつて生じたる骨空洞も照射によりて、周囲の創面より良好なる肉芽を生じて遂に治癒すべし。

六 骨折

骨及び假骨形成を促進する作用を紫外線照射が有することは前にも述べたるが如し、ハミルトンは骨折骨の治癒に對し紫外線の應用を奨賞せり。

七 微毒性潰瘍

之に紫外線照射を行ふ時は多くは創面滑淨となり、邊緣に於ける浸潤は漸次退行消失し、上皮の新生を將來す。其他、腱鞘炎、關節炎、打撲傷、血腫に應用して効果ありしと云ふ者あり。

八 結核

結核性腱鞘炎及び結核性粘液囊炎。共に紫外線照射は有効にして光線療法のみを以て治し得ることあり。最初は腫

脹、疼痛の増加することあるも間もなく腫脹、疼痛去りて輕快す。

淋巴腺結核のあらゆる時期のもの、例之増殖性型、結節形成を有する肥大、乾酪變性等に好影響を與へ、速かに吸収せらるゝか又は速かに軟化す。且つ膿瘍化しつゝあるものに良好に作用す。之が自潰せしものに照射するに矢張り肉芽發生、上皮新生を促し創痕平滑たるは一般創傷に同じきも、只治癒の少しく遅きのみ。

骨並びに關節結核脊椎、胸骨、肋骨、其他の骨結核並びに肩胛關節、腕關節、股關節、膝關節其他の關節結核に「ギブス」繃帯に兼ねて紫外線照射を行ふに極めて良好なる好成绩を擧ぐ。此場合局所照射のみならず、全身照射をも行ひて全身状態を良好ならしむる様努むべく、常に骨、關節結核に限らず凡て結核性疾患には局所のみならず全身をも照射するをよとす。但しこゝに注意すべきは、肺結核を合併せる場合は慎重に全身を照射すべく、誤つて過量を照射せんか却つて病狀を悪化せしむることあるべし。肩胛關節結核にして瘻管ありし患者に局所照射に全身照射を兼用せしに全身状態著しく佳良となり瘻管も遂に閉塞して治癒せし例あり。

結核性睾丸炎の紫外線照射は本症にも甚だ有效なるものなり。輕症のものは結節縮小し、潰瘍又は瘻管を有する重症も遂に瘢痕化して治癒すべし。

丙 皮膚科的疾患

一 尋常 麻疹

原因的療法を以て第一とす。慢性尋麻疹に太陽燈を應用するに一般に瘡痒消失すべし。本症は元來全身的のものな

るを以て全身照射を行ふべし。

二 瘰 疹

紫外線療法を行ふに緩解の效著し、即ち瘰疹消失す。距離五〇糎、一〇—二〇分間照射すべし。

三 皮膚癢痒症

本症は刺戟性物質乃至毒性物質の皮膚神経を刺戟して將來するものにして、こゝに紫外線の強照射を行ふに生物體の新陳代謝亢進せらる。老人性癢痒症は皮膚の正常機能の消失によるものにして僅かの紅斑量を以て組織の血液循環を旺盛にして著效を擧ぐ。

局所癢痒には強照射を行ふべく、大抵一〇分間、五乃至一〇糎の距離にて一週一二回照射せば癢痒速かに去り、浸潤も亦次第に消失すべし。其効力の確實なる到底藥物、レントゲン、ラヂウム等の企て及ぶ所にあらず、多くは數回の照射にて全治す。

四 尋常性天疱瘡

初期に水銀石英燈の照射を反復して水疱を消滅せしめ得と。又クラルカ氏は初生兒患者に應用して好結果を擧げた。三四回照射すれば一般自家傳染の危険を免除し得べしと。

五 チューリング氏疱疹狀皮膚炎

扁平紅色苔癬、癢疹等と同様照射によりて症狀の輕快を認む。

六 先天性表皮水疱症

本症も紫外線照射有效なりと云ふ。

七 帶狀疱疹

太陽燈照射により發疹の蔓延を制限し硬結も柔軟となり全治す。相當效果あるものなり。太陽燈照射はその中心を點在せる發疹群の中央部に置き廣く照射すべく、距離四〇糎、二〇分の只一回の照射にて著效を認めたり。

八 多形性紅斑

何れの型に於ても局所及全身照射を行へば效あり。癢痒あるものは速かに消退す。

九 凍 傷

ジヨスト氏は潰瘍性凍傷に應用して、一回の照射にて疼痛去りしを見たり。頑固な潰瘍は乾燥し痂皮を形成し速かに治せり。痒感は通常一二回の照射にて消退するものなり。距離三〇—五〇糎、五分より始め漸次増長せしむ。

十 火 傷

有效なり。緩解に照射すべし。

十一 レントゲン皮膚炎

弱照射を行へば皮膚の萎縮を防ぎ得ることあり。

十二 毒物性皮膚炎

疼痛乃至灼熱感は速かに消失し、其蔓延を防ぐべし。

十三 脂漏

本症は照射によつて症候的に好影響を受くるものなり。而して照射によつて落屑し、又は開口して分泌物の排除を見る。

十四 多汗症

局所療法として水銀石英燈は最も有效なり。レントゲン療法も屢々有效なり。全身照射をも行ひて全身状態を良好ならしむべし。

十五 濕疹

水銀石英燈は急性、慢性何れにも有効にして。殊に紅斑性及び丘疹性濕疹に適す、浸潤は速かに消退し皮膚の肥厚も照射を反覆する内に漸次輕快すべし。蟻痒に對しては著效あり。

一週二回位、氣永に反覆持續すべし、全治せざるまでも著しく輕快すべし。著明なる充血並びに落屑を來すまで照射す。慢性にして鱗屑性濕疹は新しき炎症を起す程の強照射によつて再び急性期を現出せしめ以後急性濕疹に準じて照射す。即ち急性濕疹には緩徐に弱照射を行ふべく過量たらざる様注意すべし。光を深部に及ぼさんとする時は壓抵法によるべし。

本療法を施行するに藥物的療法のみを行ふよりも著しく治癒速かなるものなり。

十六 汗疱

輕症には水銀石英光を用ふべく並びに效あり。同時に藥物療法を瘥すべからず。頑症にはレントゲン線によらざるべからず。

十七 尋常性鱗屑疹 乾癬

亞砒酸、沃度等の内服に兼ねて局所療法を行ふべきものにして、人工太陽燈は殊に新鮮の發疹を一時消滅せしむべし。僅かの鱗屑を有する汎發性型には本法を用ふべし。照射後は炎症性反應を起し多少漿液性分泌物増加すべく新陳代謝機能を亢進し全身状態を良くす。ある種のものには全く無效のこともあり、反之再發なく治することあり。鱗屑にはレントゲン療法を併用し、なほ紫外線の全身照射を行ふをよしとす。

十八 紅色靴糠疹

本法は此症に對しても症狀自己の輕快と搔痒感の減退との意味に於て有效なり。

十九 慢性單純性苔癬

紫外線療法及びレントゲン療法は藥物的療法に比し遙かに著效あり。

二十 扁平紅色苔癬

紫外線照射を行ふも特異的には好影響を與へざるも、搔痒感は直ちに消散するを常とす。照射術式、五〇種、最初一〇分、漸次増量し二〇分に至る。

二十一 尋常性毛瘡

紫外線照射は有效なり。根治を期するにはレントゲン療法によるをよしとするも、なほ藥物療法に勝れり。理學的療法に兼ねて藥物療法を行ふを利とす。

二十二 尋常性瘰癧

水銀石英燈頗る有效なるも未だ再發を防ぐに足らず。強照射によつて皮脂小囊の開口を來し、剝皮によつて病的皮膚の除去をはかる。斯くして周圍に固き浸潤なき輕症は治し得べきも重症なるはレントゲン療法を行ふべし。術式、一〇種の距離にて一〇分間。

深部の浸潤を有する瘰癧にして遠隔照射にて無効なる時は壓抵を行ふべし。この場合五―一〇分間照射すべし。他に全身療法を行ふべし。

二十三 壞疽性瘰癧

食餌療法に注意し胃腸を整へ、兼ねて紫外線療法を行へば良果を收め得べしと。

二十四 酒 皰

本症には紫外線照射は藥物療法に比するに頗る有効なり。本症を分つて第一度、第二度、及び第三度の三種とす。皮膚潮紅を來し、皮脂の分泌著明なるものを第一度とし、潮紅益々加はりて鼻頭にありては毛囊孔擴大し、壓迫すれば盛に皮脂を排泄するものを第二度と云ひ、第三度は最高度のものにして結締織肥厚し脂腺口の侈開して宛も柚の皮を見

る如き觀を呈し、即ち鼻瘡と云はるゝものなり。第一度のものには太陽燈照射にて不可なきも、其他のものに於てはクロマイエル氏燈の壓抵照射に依らざる可からず。壓抵にて一〇―二〇分間照射。

二十五 膿 疱 疹

本症にも亦有效なり、即ち廣く患部を照射するに治癒を促進し再發を豫防し得べし。少しく強く照射す。

二十六 疔

本症にも亦應用して價值あるものなり。太陽燈照射によるも不可なきも、能ふべくんば浸潤せる瘰癧と同様に照射すべし、即ち壓抵法によるを良しとす。

二十七 丹 毒

紫外線照射は本症に偉效を奏するを以て現時その應用せらるゝこと漸く多し。シエバー氏は近時約一〇〇例の丹毒患者に試みしに殆ど總ての患者に體溫降下を來し、炎症の進行を阻止せしむるを得たり。殊に顔面の丹毒症は最適應症なりと。

距離八〇釐、一〇分間(舊キランプにては一五分間)常溫に下降するまで毎日反覆照射。

二十八 蔷薇色枇糠疹

人工太陽燈を照射して患部に紅斑を起さしむる時は、治癒殊に速かなり。

二十九 紅色陰癬

紫外線照射を行ふ傍ら藥物療法を試みるに於ては奏效確實なり。

三十 癩 風

本症にも有效なり。距離一〇裡、五—一〇分間。

三十一 白 癬

白癬に淺在性と深在性とあり。後者には無効なれども前者は適當量の照射によつて治癒す。距離一〇裡、一〇分間。

三十二 尋常性狼瘡

藥物療法は實に姑息的療法にして再發を豫防し得ず、之に比し紫外線照射は有效にして屢々著效を現はすも、なほ其作用は對照的以上に出でず。されば搔破、腐蝕、手術、其他フイんゼン療法、レントゲン療法、ラヂウム療法、メゾトリウム療法等の理學的療法と兼用するをよしとす。手術後の創傷に對する紫外線療法は創傷の條下に述べたる如く頗る有效なるものなり。

狼瘡に對しては毎日又は數日に一回十分以上壓抵照射を行ふべく、皮膚面の潰瘍に對しては人工太陽燈又はクロマイエル氏燈にて強照射を行ふべし。狼瘡の局所療法に兼ねて腺病結核質に對する全身照射並びに全身療法を行ふことは勿論なり。

三十三 潰 瘍

種々なる慢性潰瘍に對しても頗る有效なるものにして良好なる肉芽の發生と、邊緣に於ける表皮の形成とを促し平滑なる美しき瘢痕を形成す。強照射を行ふ。距離、三〇裡、二〇分間。

三十四 皮、膚、腺、病

貧血性肉芽面に反覆照射するときは表皮形成を促すべし。患者の全身狀態の改良を圖ることを忘るべからず。局所照射の他全身照射をも行ふべし。

三十五 腺、病、性、苔、癬

本症に對しては紫外線照射頗る有效なり。肝油は特效藥なるを以て忘るべからず。局所照射並びに全身照射を行ふ。

三十六 顔面播種狀粟粒性狼瘡

紫外線照射も亦有效なりと。

三十七 壞疽性丘疹狀結核疹

榮養療法を以て第一とす。紫外線照射を之に應用するときは其效著し。

三十八 惡液性瘰癧

局所に熱氣療法と照射とを行ふ。

三十九 腺病性硬結性紅斑

本症にも有効なり。レントゲン線も亦用ふべし。

四十 凍瘡狀狼瘡

有効なり。ラヂウム療法亦用ひらる。

四十一 魚鱗癬

本症にも亦試むべし。強照射を行ふ。

四十二 毛孔性苔癬（一名毛孔性角化症）

本症にも紫外線又はレントゲン線の放射を試むべく、患部は脱屑を營みて治癒すべし。強照射。

四十三 角性瘰癧

藥物療法と兼用するに屢々著效をあらはす。

四十四 鱗狀毛嚢性角化症

照射によつて紅斑を來さしむるときは頗る有効なり。

四十五 血管腫

有効なり。然れどもラヂウム療法に及ばざる遠し。

四十六 バーゼット氏病

局所の強照射、並びに全身照射。

四十七 白癜風

藥物療法に兼用するに效果最も著し、ブシユケ氏は色素形成を來すと云ふ。短時間の照射後、滲胞排列を來すため二週乃至三週の間隔をおくと。壓抵法によるべし。

四十八 汎發性鞏皮症

紫外線照射に兼ねて滋養療法、温泉浴等を試むべし。

四十九 限局性鞏皮症

亦有効なり。

五十 紅斑性狼瘡

本症に對する紫外線療法は必ずしも毎回確實の奏效を期し難きも藥物療法に比すれば遙かに有効なり。パツハ氏の經驗によれば無効なりと雖も、ウエツテレル、ミユレル、ペーリング、ピンクツオーウエル、シヤットマン、ライネス等の諸氏は良好なる結果を得たり。

急性症には照射不可なり、却つて症狀の悪化を來す。慢性症には有効なり。治療は長期に涉りて忍耐して行ふべし。亞急性症には壓抵法にて一〇—一五分間照射、慢性症には壓抵法、一〇—二五分間、但し第一回の照射は短時間なるをよしとす。局所照射の他全身照射を行へば更に可なり。或學者は照射を常に同一強度に行はずして即ち四週間に一度強く照射し、其間は三日乃至四日の間隔を以て弱照射を行ふべしと、斯くすれば最も有効なりと。

五十一 圓形脫毛症

種々なる禿頭病に對し紫外線照射は頗る顯著なる効果を擧げ得べし。治療には皮膚を刺戟して充血を起し、不手部に於ける血液循環を良好ならしめ毛髮の榮養を恢復せしむべし。

熱性病又は神經性疾患の爲めに起れる廣汎性禿頭は多くは完全なる生毛を見る。ナーゲルシュミット氏によるに、圓形禿頭の一〇四例中、八〇例は完全治癒、一六例は輕快、只僅に八例に於て無効なるを見たり。脂漏性禿頭の五三例は全部、而かも多くは一回の照射によつて治癒せり。而して自覺症狀全く去り、鱗屑は消失し、生毛を見たり。既生の毛髮は其成長を増したり。其他全禿頭、區劃性禿頭等その治癒成績の報告枚舉に暇あらず。

紅斑性狼瘡等の癩痕部には生毛を見ず、急性レントゲン脫毛症及び微毒にして皮膚の破壊せられざるものは照射有效なり。

距離、五種、一五—三〇分間、數日の後皮膚に潮紅、落屑あり、次で生毛すべし。頑症には一週數回反覆照射す。藥物療法を兼用するに更に妙なり。ナーゲルシュミット氏によれば二五—三〇種、一〇—二〇分間照射。

五十二 批糠性脫毛

局所及び全身照射を併用して新陳代謝を充進せしめ、好結果を見得べしと、然れども圓形禿頭に比すれば照射數遙かに多きを要す。

五十三 レントゲン脫毛症

有效なり、圓形脫毛症の條下を見よ。

五十四 縮毛

屢々良效を見る、藥物療法を併用するをよしとす。

五十五 白毛 白髮

若白毛に對して有效なりと。可なり長期に涉つて照射すべく醫師も患者も共に忍耐を要すと。

丁 小兒科的疾患

小兒科領域に於ける紫外線療法の使用は最も重要なる地位を占むるものにして、榮養不良の小兒には殆ど缺くべからざるの感あり。

適應症

一 結核

結核性淋巴腺炎(淋巴腺結核)

骨及び關節結核

皮膚結核

結核性腹膜炎

肺門腺結核

肺結核

ピルケ氏反應陽性兒童

- 二 佝僂病
- 三 小兒テタニー
- 四 乳兒丹毒
- 五 小兒の皮膚疾患 濕疹
- 六 百日咳
- 七 舞蹈病 夜尿症 氣管支喘息 神經質
- 八 小兒血液疾患 特に貧血症
- 九 虛弱兒童

等にして、多くは前に述べたるを以て其條下を見るべく、他は概ね全身照射を行ひ、要あれば之に局所療法を併用すべし。

成 婦人科的疾患

一 全身照射

紫外線の全身照射は新陳代謝機能を亢進し、血液再生を促し、瘡せたる者は肥え、肥えたる者は通常體まで瘡せる

ことは前述の如し。斯く全身照射によつて全身状態の繼續的輕快を以つて、白帶下、無月經、月經困難等の輕症の如き獨特の婦人科的疾患も消失することあり。

二 内部生殖器の局所疾患

この局所照射には人工太陽燈にては不可なり、熱作用のために火傷を起す虞ありとて新しきランプ即ち「ウルトラゾンネ」造られたるも特に之を求むる必要なし、クロマイエル氏燈にても大體代用し得べし。

術式「ウルトラゾンネ」によるときは一五—三〇分間の照射、間隔は一—二日、クロマイエル氏燈によるときは一〇—一五輒、一五—三〇分間、隔日照射。

照射前矢つ陰部洗滌を行ひ清淨ならしめ、陰部を開口し照射す。

適應症は1 白帶下を伴ふ疾患

2 子宮附屬器疾患（殊に炎症性疾患）

3 發育不全に因する周期的疾患

顆粒性陰炎

ブラメスフェルド氏の實驗例によるに、第一回の照射後分泌物の流出多量となりしも、その代り稀薄となり却つて苦痛減少せり。第二回の照射後既に白帶下消失し、組織の乾燥を來せり。顆粒性陰炎にては紅色斑點は速かに消失す。この顆粒性陰炎は氏の例に於ては申分なく皆全治せり、一例の如きは一分六回の照射にて全く快癒せり。癒著性陰炎に於ては、それが老人性のものにして、或はラヂウム療法後に發生せしものにも、その剝離に際して生じたる物

質缺損は治癒し難きものなり。然るに毎日の照射により速かに治癒す、例之、一〇回の照射にて老人性膣炎を完全に除去し得るのみならず數ヶ月間の觀察によるに再發なしと。

氏は膣炎を照射する際、厚き管を用ひ、先づ子宮腔部にまで挿入し、一〇分間毎に二三種引き出して照射す。

子宮腔部の糜爛

紫外線照射を行ふて殆ど治せざるもの無き程、本症に對して頗る有效なるものにして、従つて患者の痛く感謝する所なり。如何なる療法を試むるも治癒し難き頑症に於ても同じく有效なり。余は距離一〇—一五種にて一五—二〇分間、隔日照射せしに、第一回の照射にて分泌物流出の著減を見たり。のみならず一例に於ては元來冷え性なりしものが、第一回の照射によつて、此の冷え症全く去りしと云ふ。

女子外陰部搔痒症

是亦有效なり、前者に比し比較的弱く照射すべし。搔痒速かに去る。

頸管疾患

本症にも亦有效なり、然れども元來頸管疾患は頑固にして従つて長く照射せざるべからず。糜爛と同様、先づ分泌物の著減を見る。

子宮頸部腫腫に於て患者の最も苦痛とする所のは、腐敗性、鼻を衝く如き惡臭なり。紫外線照射はこの惡臭に對して頗る有效なり。

子宮附屬器疾患に基づく白帶下は附屬器の照射によつて始めて除き得るものなり。この際同じく膣部の照射をも行ふべし。

發育不全が白帶下の原因をなす時は膣以外に卵巢の強照射をなすべし。

子宮附屬器疾患

ランデケル氏は他の治療法にては治癒せざりし一五〇例の炎症性附屬器腫瘍に紫外線照射を行ひしに、二三回の照射後突然疼痛消失し、腫瘍は扁平縮小せり、再發は之を見ざりしと。

熱のありし者は下降し、滲出液並びに膀胱狀癥痕線にてさへ一二—一五回の照射、即ち凡六〇〇分にて消失せりと。其他手掌大の腫瘍が四、五日にて林檎大のものは六回にて著しく縮小せり。總ての例に於て自覺的に症狀全く消失す。

囊腫性附屬器腫瘍にも効果良好にして腫瘍の消失を見たり。斯く殆ど總てに於て二、三回の照射にて消失す。骨盤結締織にも有效、熱は迅速に下降し、滲出液は溫熱療法よりも却つて吸收速かなりき。

月經障害

多くの學者は種々なる月經障害に試みて効果を挙げたり、ランデケル氏は之を五つに分類せり、即ち

- 1 先天性發育不全及び機能減退による無月經或は月經不利
- 2 後天性の無月經
- 3 月經困難

4 發育不全殊に卵巢の機能による不妊

5 更年期に於ける交感神経症及び手術乃至レ線去勢の結果による月經閉止期

氏は是等の障害に紫外線照射の著しく有効にして、臓器製劑の遠く及ぶ所に非ざるを述べたり。

其他、月經困難に強き貧血を伴ふ患者に照射と「ヂアテルミー」を併用して著效を挙げたり。

以上、白帶下疾患、附屬器疾患、子宮周圍炎、月經障害等に於て其殆ど總てに有效なり。なほ余は冷え性の者に局部照射を行ひて有效なりしを見たり、この際更に腰部の太陽燈照射を試むれば一會可ならん。

只「ヂストロフイア、アヂイボゾゲニターリス」には無効なりと云ふ。

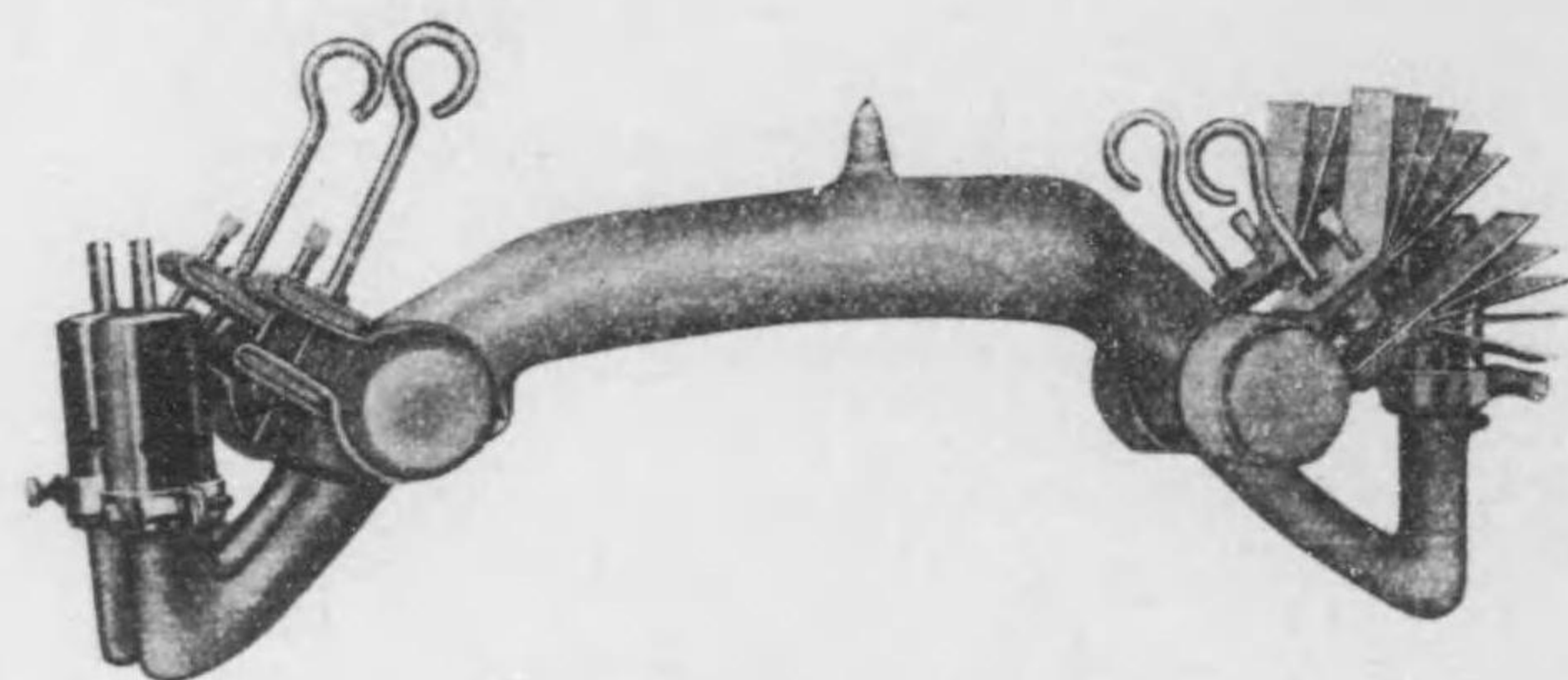
以上の他、紫外線照射療法は耳鼻科的疾患、眼科的疾患、齒科的疾患等にも應用せらるゝものなり。

紫外線療法

大正十五年九月廿五日印刷
大正十五年十月一日發行

(定價五十錢)

編輯者	野上啓治
印刷所	東京市芝區二本榎町一ノ一七 佐藤保太郎
發行所	東京市京橋區錦屋町五 株式會社文祥堂
發賣元	東京市京橋區錦屋町五 東京電氣株式會社
	神奈川縣川崎市
	三榮商會
	大阪市西區京町堀通四丁目八



交流用ギバ太陽燈

ギバ太陽燈

交流用バーナー ￥260.00

直流用バーナー ￥250.00

マツダランプ製造元

東京電氣株式會社

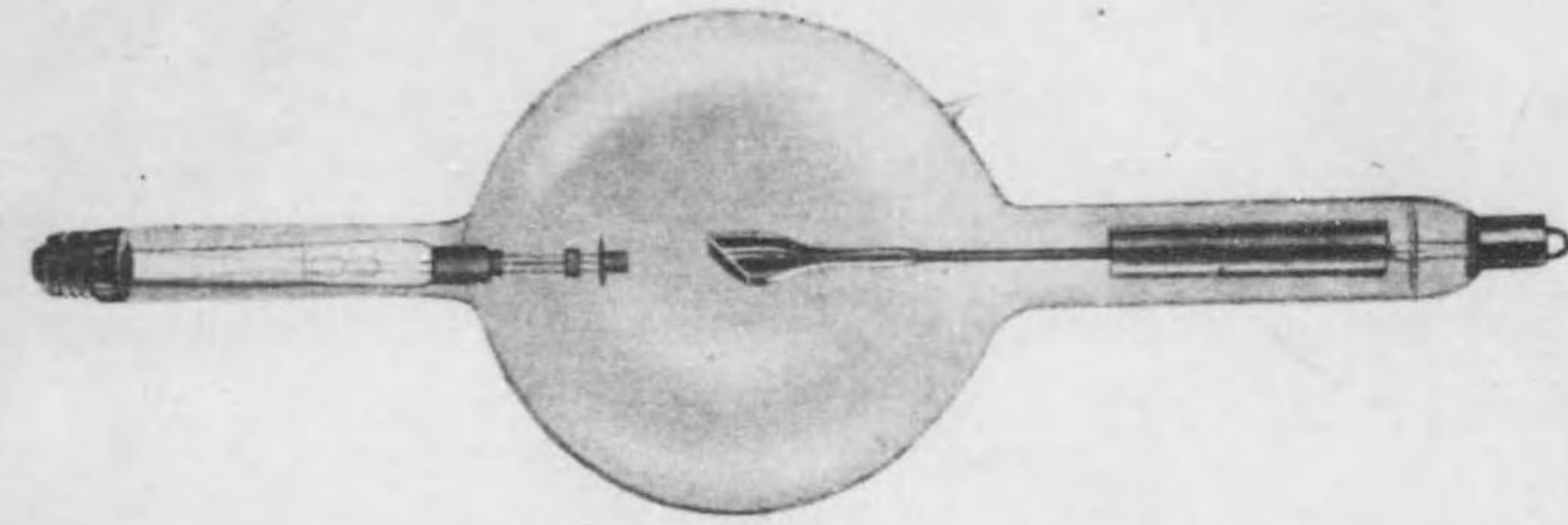
神奈川県川崎市

特約店

大阪市西區京町堀通四丁目八番地

三榮商會

クーリッチ管球



U型クーリッチ管球

東京電氣製

U型	定價	¥250.00
H型		¥650.00
R型		¥210.00
S型		¥95.00

米 國 製

U型	定價	¥450.00
H型		¥900.00
R型		¥450.00
D型		¥450.00
W型		¥2,000.00

マツランプ製造元

東京電氣株式會社

神奈川県川崎市

60
695

終